
恋してもいいですか？

一理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋してもいいですか？

【Nコード】

N9702M

【作者名】

一理

【あらすじ】

ヒロインを夢見る何処にでもいるようなごく普通の女の子がある日友達に恋愛話いわゆる恋話を聞いて『自分も恋したい！』といいだし大騒ぎ。恋を探して池に落ち、恋を探して夢にオチ……。なんだか先の思いやられるヒロインでした。

「『付き合ってくれなきゃ死んでやる!』って言われてもさー』『じやあ付き合います』ってなるわけないじゃんねー」

「てかさいつキモくね?」

「えー?あたしは可愛いと思うけどな」

恋のブームはいきなりやって来る。春夏秋冬関係なく・人間は他を愛することができる生き物なのだ。

「いや、ないね!だってほら小説のヒロインも超ひいてんじゃん『何こいつ』って」

「そうだねー付き合うならいい男だよね〜玉の輿こないかな〜」

「こんな世の中にいるわけないじゃん」

友達の話聞きながらお菓子をぼりぼり食べ進んでいく。

「てかさーリアルな話よ?男さー浮気してるかもー」

「誰の?愛の?」

「そう、なんかさー夜な夜なナンパ行くのー本気ありえないと思わない?!

「えー彼女いるのにナンパとか」

「うちは許してるけど?」

「江里子の彼氏男と遊んでるだけじゃん!馬鹿ばっかだし」

「うちの男馬鹿にしないでよ」

もぐもぐ動いていた口が止まる。

「ま、ノロケだけど?アタシ昨日付き合ってた丁度一ヶ月記念でさ〜」

ケーキ奢って貰ってさ、イチゴあ〜んってしてもらった!」

「う〜わ〜」

「引くなそこ!」

友達の一人が気づいた。

「あれ?桜子どうかした?」

「・・・も」

「ん?」

ドン!!

「高校三年!!木野桜子17歳!私も恋をしたいと思います!」

どどーんと宣言。友達は汗を流した。

「いや、宣言しなくともすれば良いじゃん?男紹介しようか?」

「運命の人は自分で探すの!ラブは突然に!!いつてきます」

「いやまだ学校あるから!」

「どうしたいきなり」

桜子を取り押さえ話を聞く。理由・特になし。皆は頭を押さえ
た。

「桜子の男話聞かないっておもったら興味なかったんだ」

「うん」

ソレがまた突然に狂うとは

「じゃー放課後手伝ってあげる」

「みんなーありがとー」

ってことで放課後。

「いい男は彼女持ち、子持ち、ヤンキー・・・」

「今日は収穫無いな・・・まー探すなら祭りの日まで待ったら？」

「今したいの」

「そんなゲーム感覚で言われてもなー恋ってのは遊びじゃないのよ」
「男とつかえひつかえしてるやつがよく言っよ」

後ろで言い合ってる友達を無視して探すが、やはり彼女持ち・・・そもそもあまり心躍らない。

私はもしかして一生恋できないんじゃないだろうか・・・

「うう」

「桜子あぶないー!」

「うわぁ!!--」

スゴイスピードで運転する大型トラックが狭い道を走っていった、避けようと手すりに飛びついたが勢い付けすぎて池に落ちた。
最悪・・・大爆笑するなんて・・・なんて酷い友達だろう

「どうしました、大丈夫ですか」

「あ、はい・・・」

イケメンの警察のお兄さんが現れた。イケメン!これは・・・けっこ
ういい運命の出会い!?

「ありがとうございます」

「いえ、気をつけてくださいね」

「あ、あの・・・もし良かったら私とこ」「ダーリン」！！！！?」

誰！？不吉なこといいながら人のセリフとかぶる人！

「ダーリン！お弁当忘れてるぞ」

「ああ、ありがとうハニー」

け！新婚かよ！！

友達のほづを見ると同じ顔をしていた。

「もう帰ろっか・・・またにしようよ」

「うん・・・」

「桜子・・・愛しているよ桜子」

「ああ、ダーリン私も」

夢でした。

「はや！！！！?」

夢にしてもなんて早い夢オチ・・・もうすこしラブロマンスくれてもいいんじゃないの?!

うう・・・夢の、夢の・・・夢のばっきゃろおおお！！！！

家を飛び出す、まだ朝になりきらない夜・・・ていうか8時に寝るとか早すぎたな

「あ、迷子になっちゃった」

とぼとぼ歩いていると、なんか見えた。そりゃ目があるから見える
だろうケド・・え、なんだろうこの刑事ドラマのワンシーンみたい
な。

ナイフを持った男と血まみれで倒れている男

うっそお マイペース

「誰だ」

ヤバイ見られた!?!って思うのは逆かな

「どけ」

横から声が出したと思ったたら身体を引き寄せられた(ええ)

あーんど、銃声・ナイフをもった男の足元を撃ちまくる、警告さ
れた男は逃げていった。

「おい餓鬼、ここは子どもがいていい時間じゃねえ。綺麗な身体で
いたきゃ帰りな」

どうやら気がつかないうちに裏路地に迷い込んだらしい。ほんとう
っかり

「聞こえてんのか」

銃口をオデコにこすり付けられる。熱い・

「あの」

「あ?」

私は両手を組んで精一杯の笑顔で言った。

「私、アナタに恋してもいいですか？っていうか・・・しちゃいました。」

きゃーっと照れていると男の人は銃を私の足元に向けて撃った。

「きゃー!?!」

「アホめかしてんじゃねーよ、夢遊病者が。それよりも今日のことには誰にも言うなよ・・・俺は殺し屋だからな、すぐにお前を殺せる。いいな」

「私だけが知っている(うっとり)」
「。。。。。」

殺し屋さんが呆れた顔でアタシの頭を掴んだ。これ、この痛さはアイアンクローですか!?

「イタイイタイ!」

「俺は恋愛なんざする気はない!」

「そんなー恋人でもいるんですか」

「・・・いるいないじゃねーんだよ」

「いないならいいじゃないですか!私木野桜子・・・只今絶賛!」

殺し屋さんの手が緩まった。

「アナタに恋しています!」

(後書き)

ラブは突然に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9702m/>

恋してもいいですか？

2010年11月12日20時39分発行